

第14期  
第2四半期  
決算説明会

2019年2月26日

scigineer

サイジニア株式会社

# 会社概要

**scigineer**

- 会社名           サイジニア株式会社
- 所在地           東京都港区浜松町1-22-5
- 代表取締役      吉井 伸一郎
- 事業内容        パーソナライズ・エンジン「デクワス」を利用したマーケティング支援サービスを提供
- 沿革            2005年8月      サイジニア有限会社を北海道江別市に設立  
                  2007年4月      サイジニア株式会社へ組織変更  
                  2008年5月      「デクワス.RECO」サービス開始  
                  2010年10月     「デクワス.AD」サービス開始  
                  2012年9月      「デクワス.DSP」サービス開始  
                  2014年2月      「デクワス.POD」サービス開始  
                  2014年12月     東京証券取引所マザーズ市場へ上場  
                  2016年10月     「デクワス.CAMERA」サービス開始  
                  2017年2月      ファッションAIアプリ「PASHALY(パシャリィ)」をリリース  
                  2017年9月      ビジュアルAIレコメンド「デクワス.VISION」サービス開始  
                  2018年8月      クルーズ株式会社と業務提携  
                  2018年8月      Yextのパートナーとしてデジタルナレッジマネジメント事業を開始

- ネット上の情報閲覧や商品購入などに関する

ユーザー行動履歴を大量保有し、

- ビッグデータから趣味嗜好性を解析する

AI等を駆使した独自解析技術を開発、

- 欲しいものをおすすめ、商品購入を促進する

マーケティングサービスを提供しています

---

「探すんじゃなくて、でくわす」を実現する デクワス を開発・提供



## レコメンド事業



dequas.RECO

パーソナライズ ターゲティング

## ネット広告事業



dequas.AD



dequas

再購入促進

AIによる画像解析



dequas.POD

PASHALY

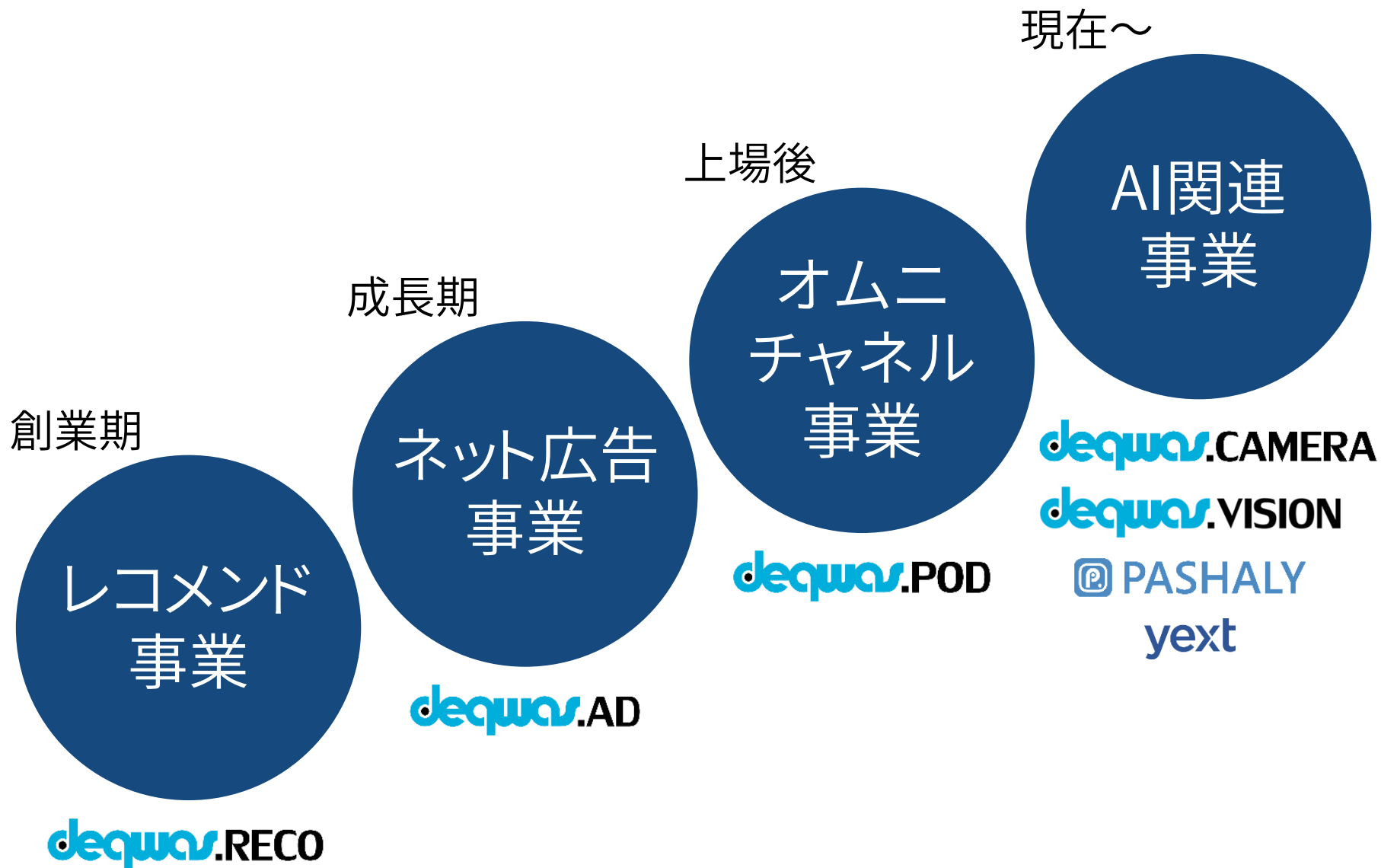
dequas.CAMERA

dequas.VISION



## オムニチャネル事業

## AI・ビジュアルコマース事業





上期ハイライト

**scigineer**

① 既存ビジネスの伸長

② クルーズ株式会社との協業

③ デジタルナレッジマネジメント事業に着手



## 高付加価値の「デクワス.AD」ビジネスが伸長

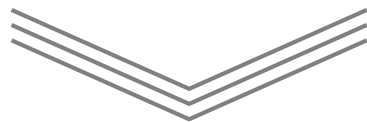
- 大型顧客への集中サポートを実施したことにより、  
売上が前年同期比で64%増
  - 当社の得意領域であるデータ分析・解析を軸に、  
顧客のビジネス拡大に貢献
  - 顧客の営業力強化に有効な支援ツールを開発提供

## レコメンデーションビジネスの伸長

- 画像解析AIを用いた「デクワス.VISION」をきっかけとして「デクワス.RECO」とともにレコメンドサービスが伸長し、顧客数が増加

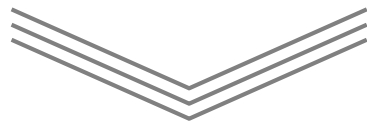


行動履歴の収集が不要で、新着商品の画像が届いた段階で即座に解析・レコメンドが可能。



商品の入れ替わりが激しいファストファッションや、一点物を扱うECサイトで特に効果を発揮

人間の見過ごしに依存せず、全ての商品画像をAIが解析。価値ある商品が埋もれてしまうことを防ぐ。



大量の商品を取り扱うECサイトで特に効果を発揮

## SHOPLISTを運営するCROOZ SHOPLIST社との協業推進

- 各種デクワスをSHOPLISTへ順次導入、取引を拡大
- SHOPLIST顧客企業への代理販売は下期へ
- 既存サービス以外にも協業範囲拡大に向け取り組み開始

当社

技術の  
開発・運用

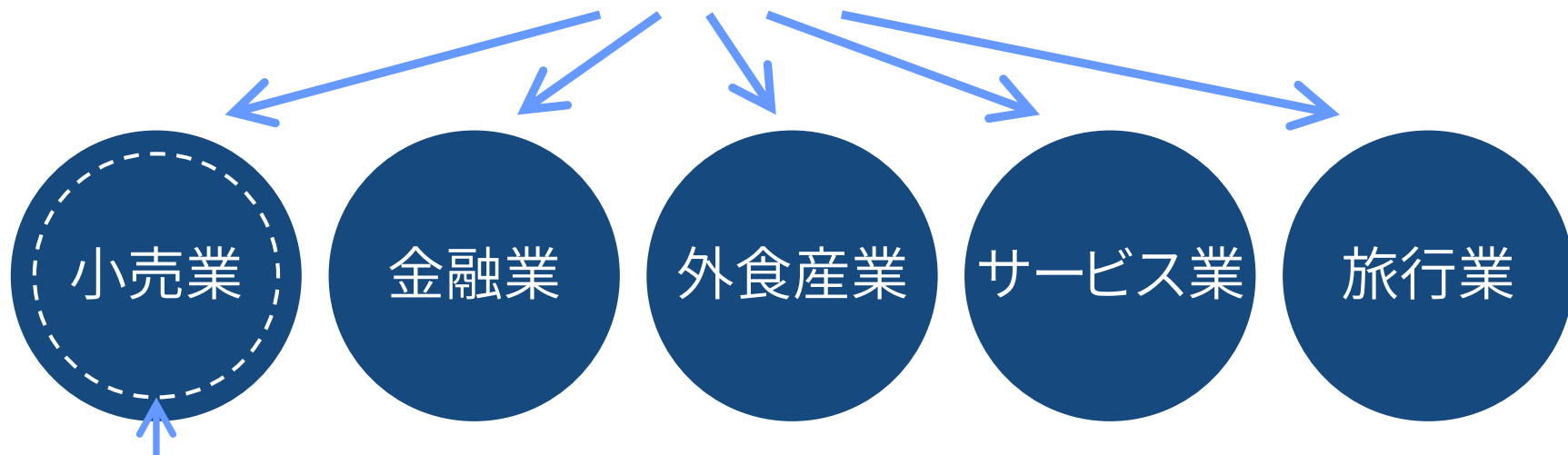
+

サービスの  
企画・販売

CROOZ  
SHOPLIST

## デジタルナレッジマネジメント (DKM) サービス販売開始

- ネット上の情報を一元的に制御するデジタルナレッジマネジメント企業Yextの国内協業パートナーに認定
- 多数の実店舗をもつ、あらゆる業種の企業がターゲット。既存事業に比較して営業先が拡大。本年に入り受注獲得。



既存事業の主なターゲットはECを展開する小売事業者

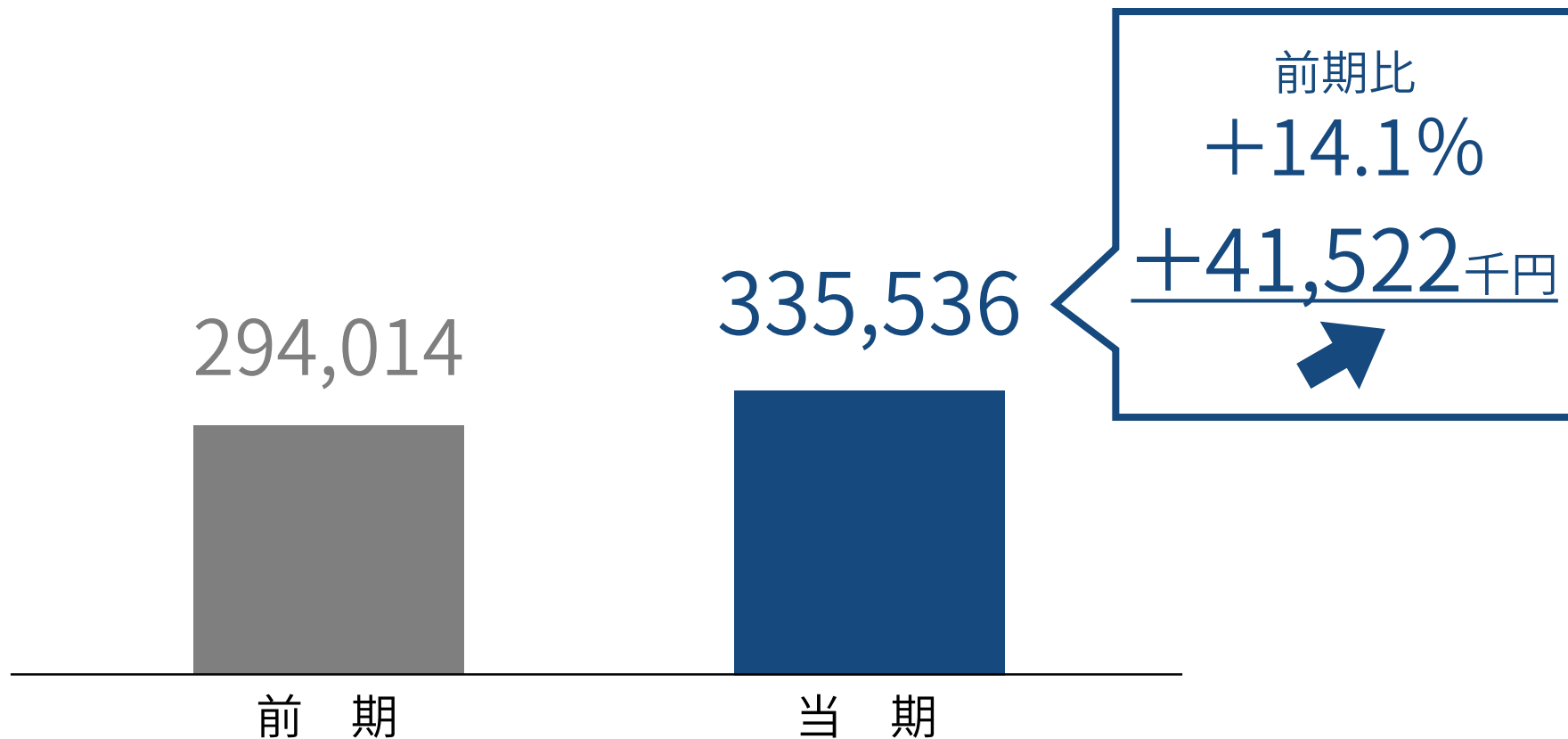
# 第2四半期決算概要

**scigineer**

- 当会計期間 (2018年7月1日～2018年12月31日)

## 売上高

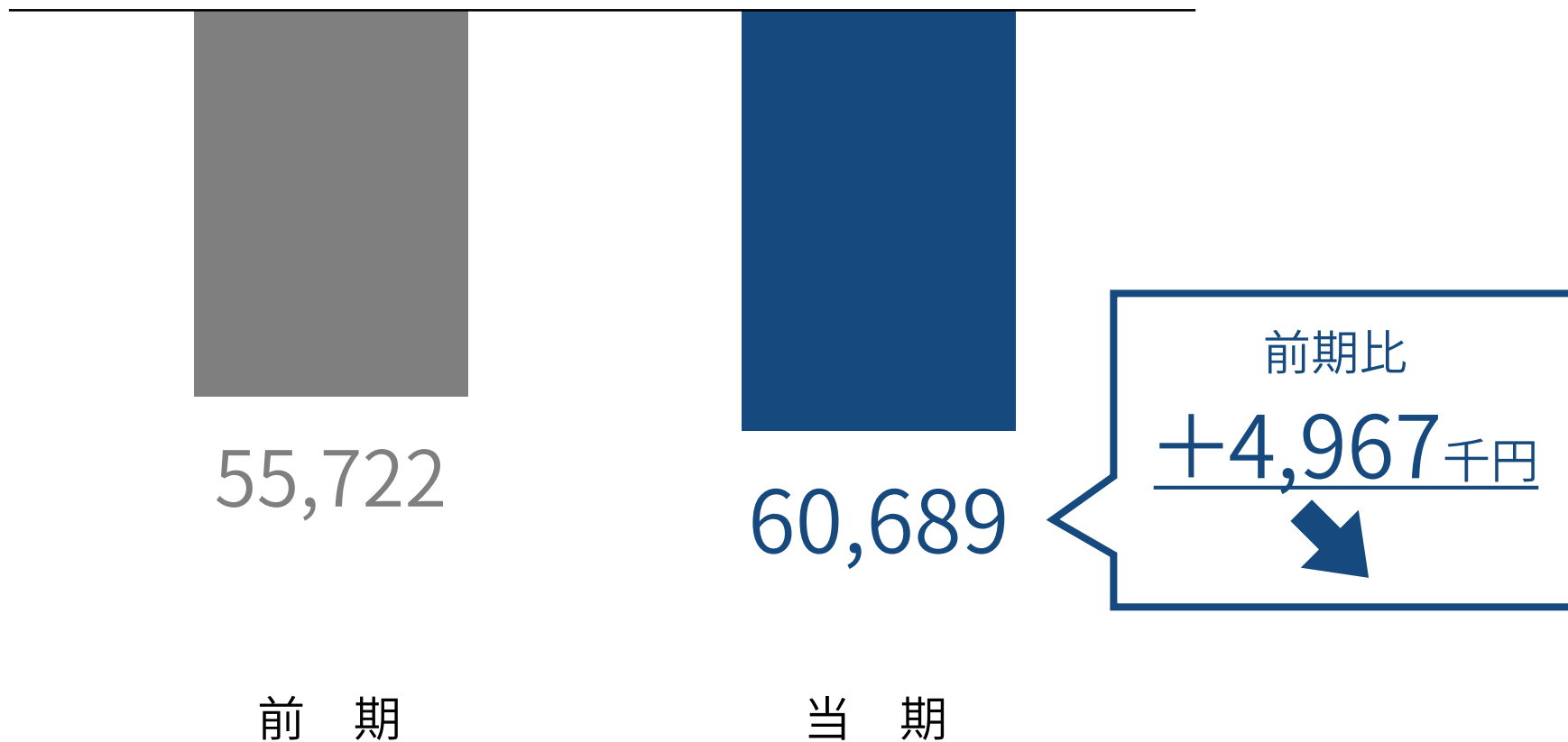
単位:千円



- 当会計期間 (2018年7月1日～2018年12月31日)

## 営業損失

単位:千円

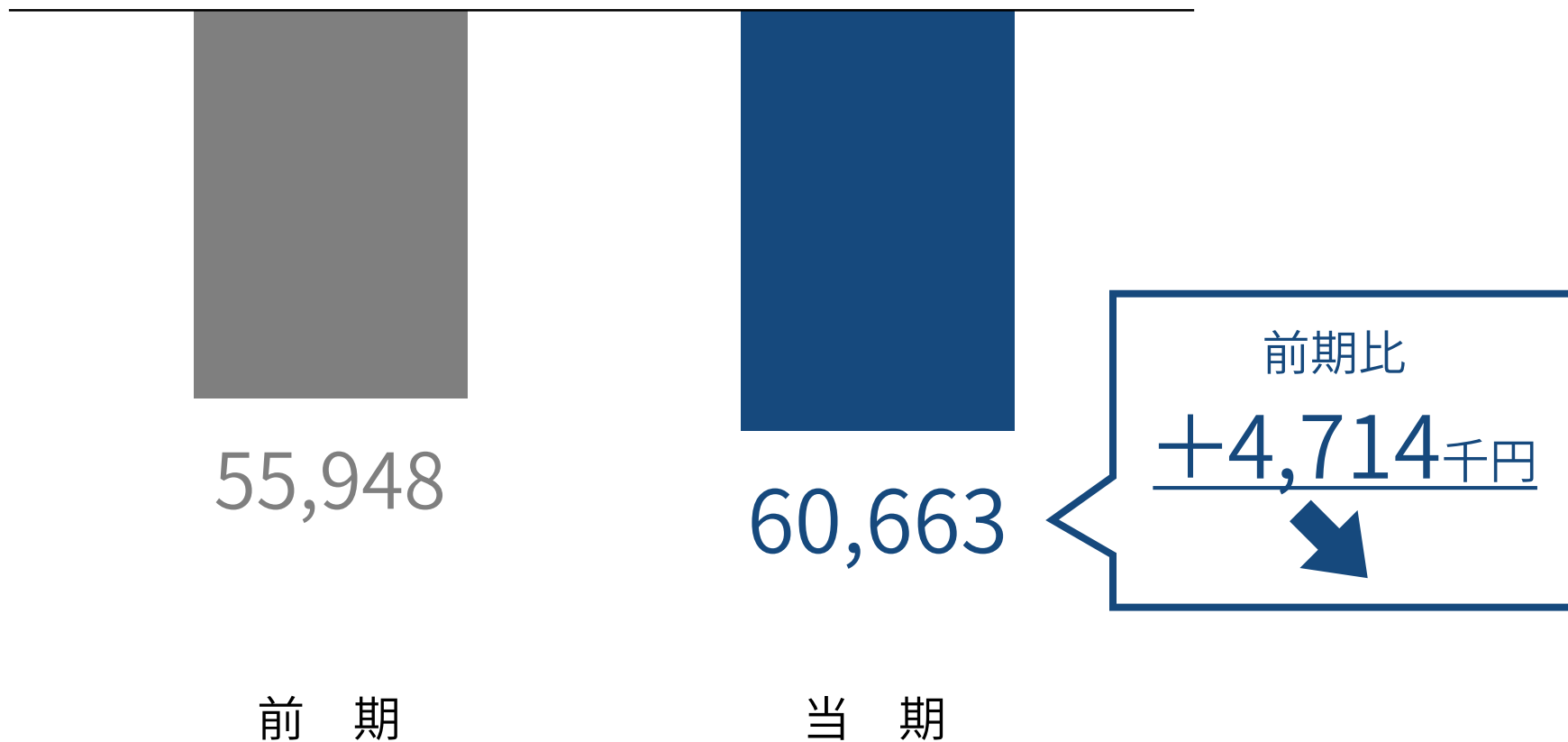




- 当会計期間 (2018年7月1日～2018年12月31日)

## 経常損失

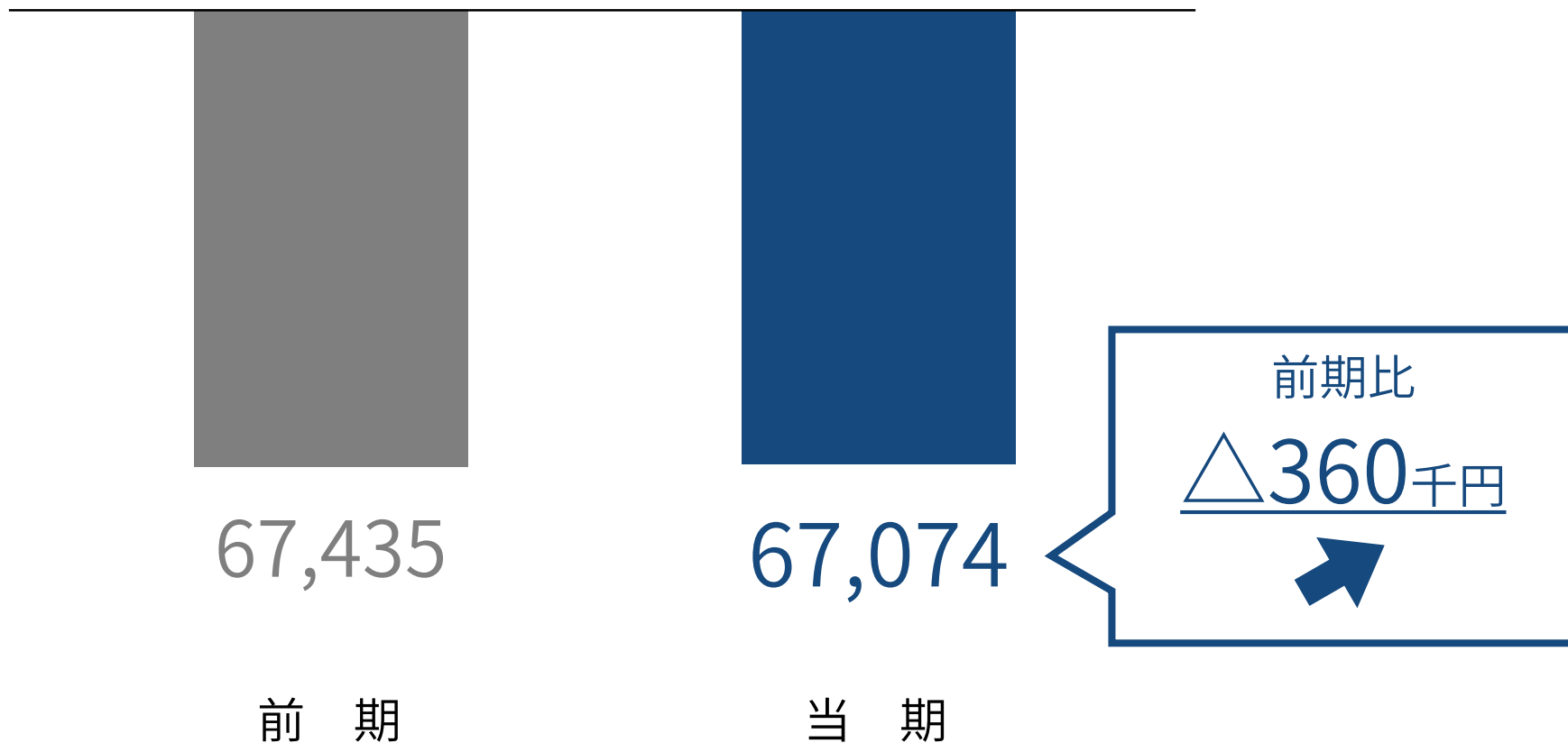
単位:千円



- 当会計期間 (2018年7月1日～2018年12月31日)

## 当期純損失

単位:千円



単位:千円

科目	金額
売上高	335,536
売上原価	274,860
売上総利益	60,676
販売費及び一般管理費	121,365
営業損失	-60,689
営業外収益	28
営業外費用	1
経常損失	-60,663
特別損失	0
税引前当期純損失	5,936
当期純損失	-67,074

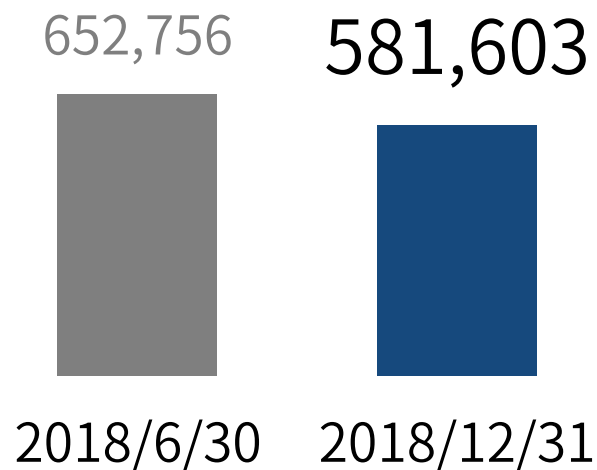
# scigineer 貸借対照表(資産の部)

単位:千円

科目	金額
資産の部	
流動資産	560,576
固定資産	21,027
有形固定資産	—
投資その他の資産	21,027
資産合計	581,603

## 資産合計

前事業年度末比  
 $\triangle 71,153$ 千円



# scigineer 貸借対照表(資産の部)

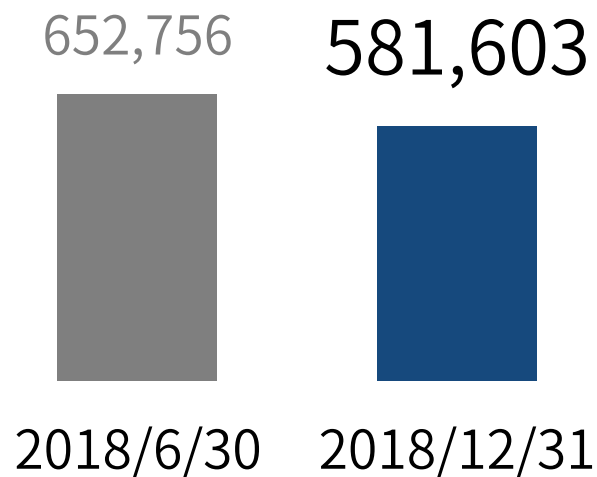
単位:千円

科目	金額
資産の部	
流動資産	560,576
固定資産	21,027
有形固定資産	—
投資その他の資産	21,027
資産合計	581,603

- 当期純損失による現預金の減少
- 売掛金の減少

## 資産合計

前事業年度末比  
 $\triangle 71,153$ 千円



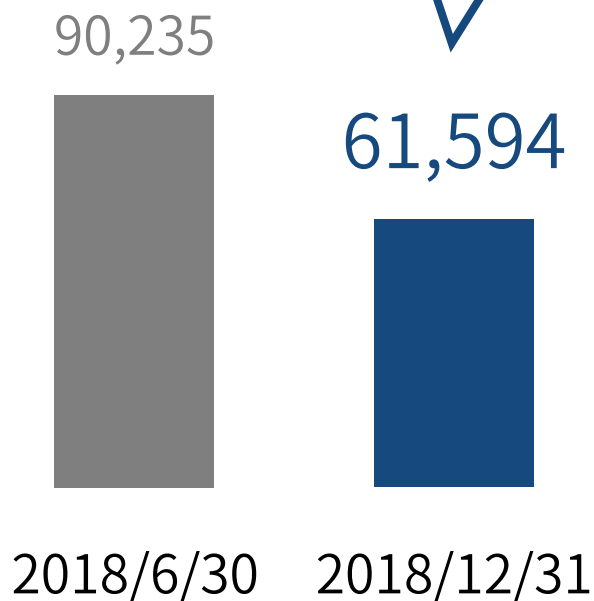
# scigineer 貸借対照表(負債の部)

単位:千円

科目	金額
負債の部	
流動負債	55,402
固定負債	6,192
負債合計	61,594
純資産の部	
株主資本	504,920
資本金	800,961
資本剰余金	797,961
資本準備金	797,961
利益剰余金	△1,094,002
新株予約権	15,088
純資産合計	520,008
負債純資産合計	581,603

## 負債合計

前事業年度末比  
 $\triangle 28,640$ 千円



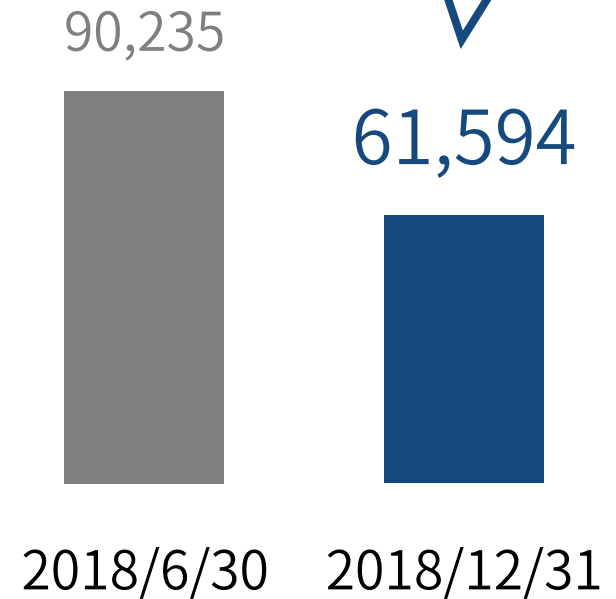
単位:千円

科目	金額
負債の部	
流動負債	55,402
固定負債	6,192
<b>負債合計</b>	<b>61,594</b>
純資産の部	
資本剰余金	797,961
資本準備金	797,961
利益剰余金	△1,094,002
新株予約権	15,088
純資産合計	520,008
負債純資産合計	581,603

- 買掛金、未払法人税等の減少

## 負債合計

前事業年度末比  
 $\triangle 28,640$ 千円



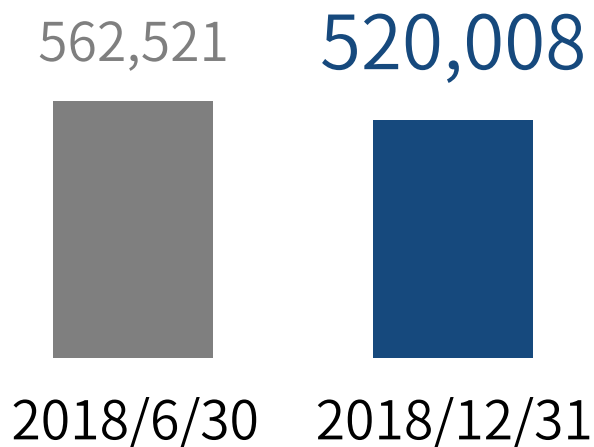
# scigineer 貸借対照表(純資産の部)

単位:千円

科目	金額
負債の部	
流動負債	55,402
固定負債	6,192
負債合計	61,594
純資産の部	
株主資本	504,920
資本金	800,961
資本剰余金	797,961
資本準備金	797,961
利益剰余金	△1,094,002
新株予約権	15,088
純資産合計	520,008
負債純資産合計	581,603

## 純資産合計

前事業年度末比  
 $\triangle 42,512$ 千円





# scigineer 貸借対照表(純資産の部)

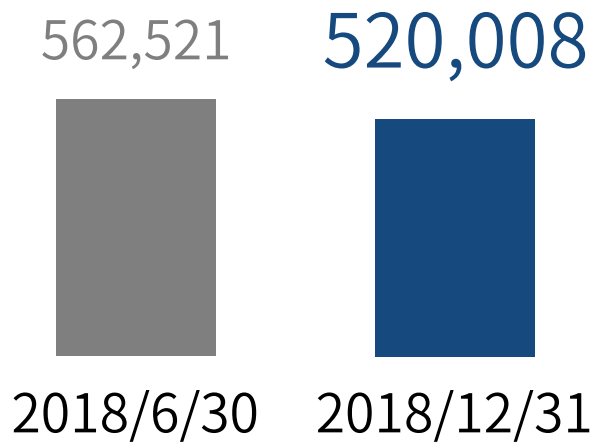
単位:千円

科目	金額
負債の部	
流動負債	55,402
固定負債	6,192
負債合計	61,594
純資産の部	
株主資本	504,920
資本金	800,961
資本剰余金	707,061
利益剰余金	△1,090,021
新株予約権	15,088
<b>純資産合計</b>	<b>520,008</b>
負債純資産合計	581,603

● 当期純損失の計上による繰越利益剰余金の減少

## 純資産合計

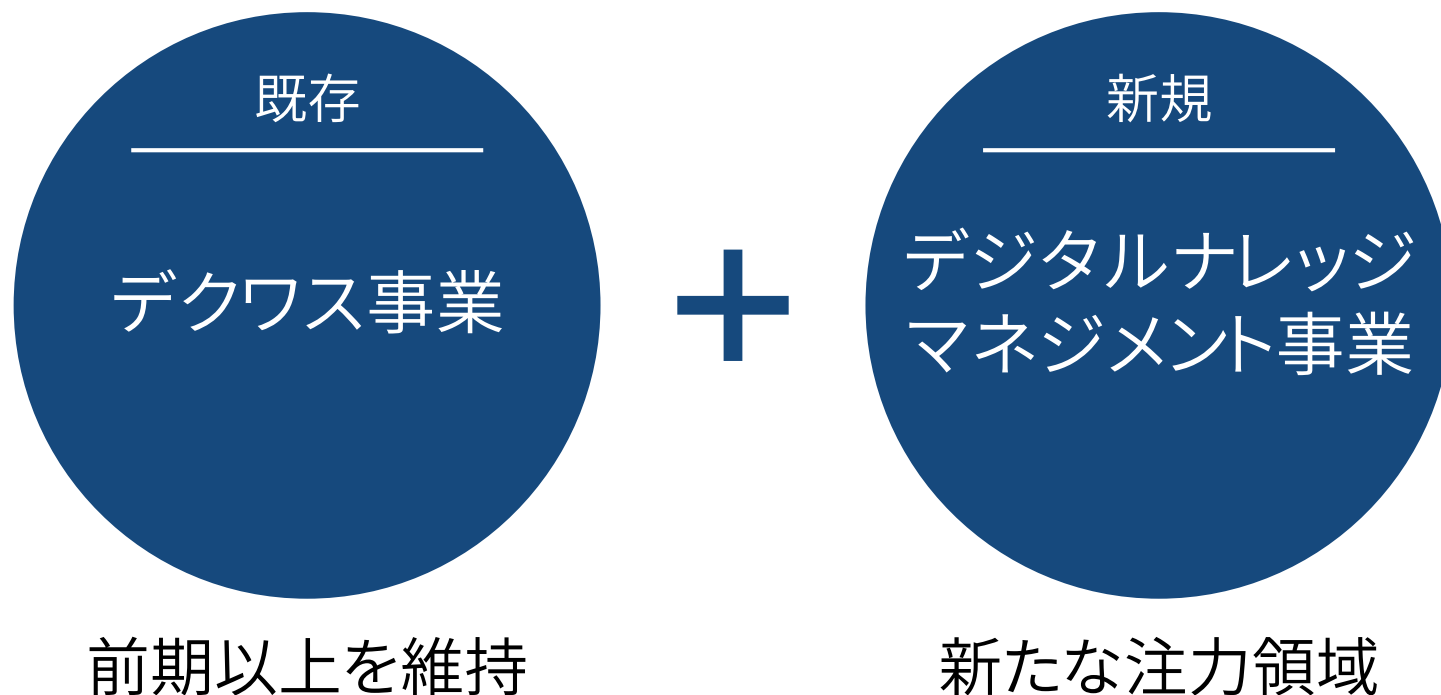
前事業年度末比  
 $\triangle 42,512$ 千円



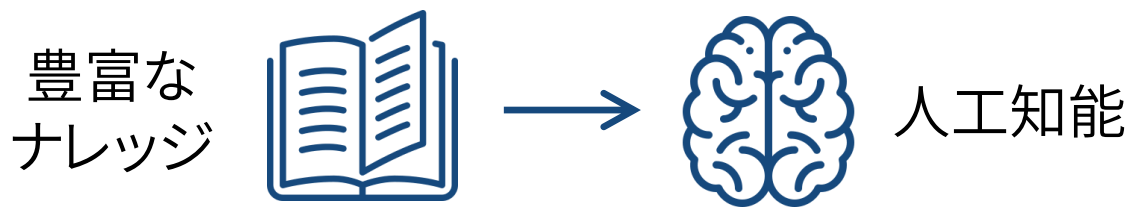
下期の取り組み

**scigineer**

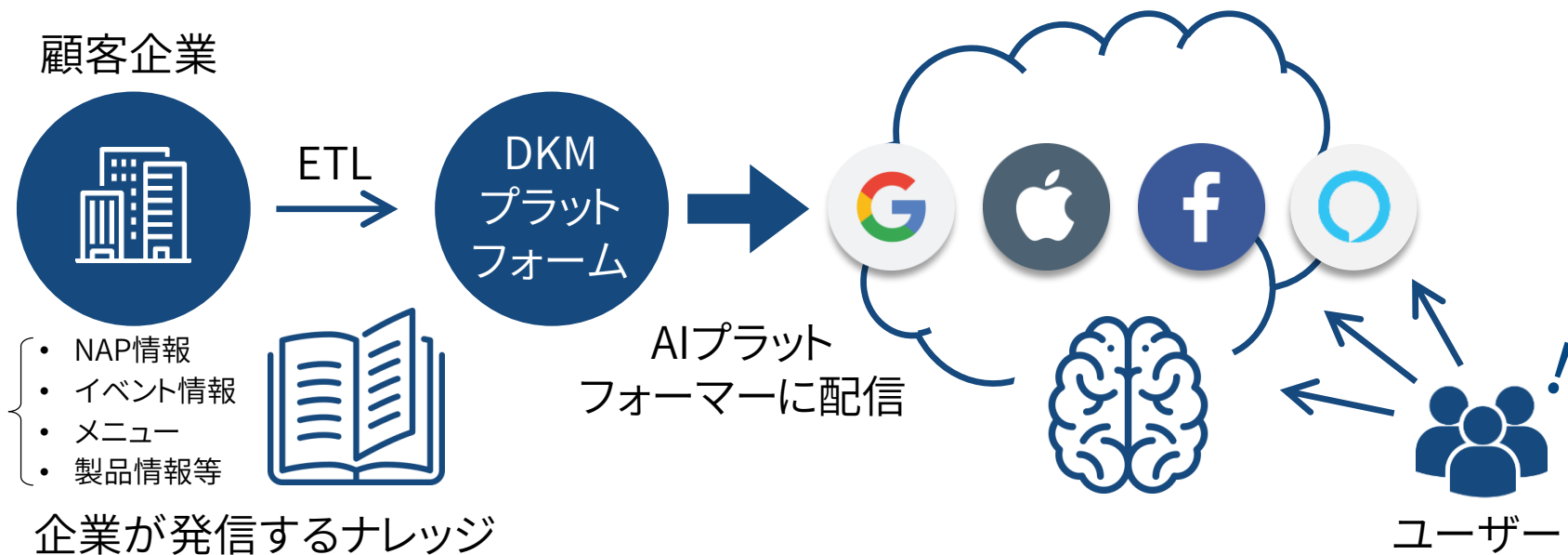
- 既存のデクワス事業では選択と集中で収益性を向上
- 新規にデジタルナレッジマネジメント事業に注力

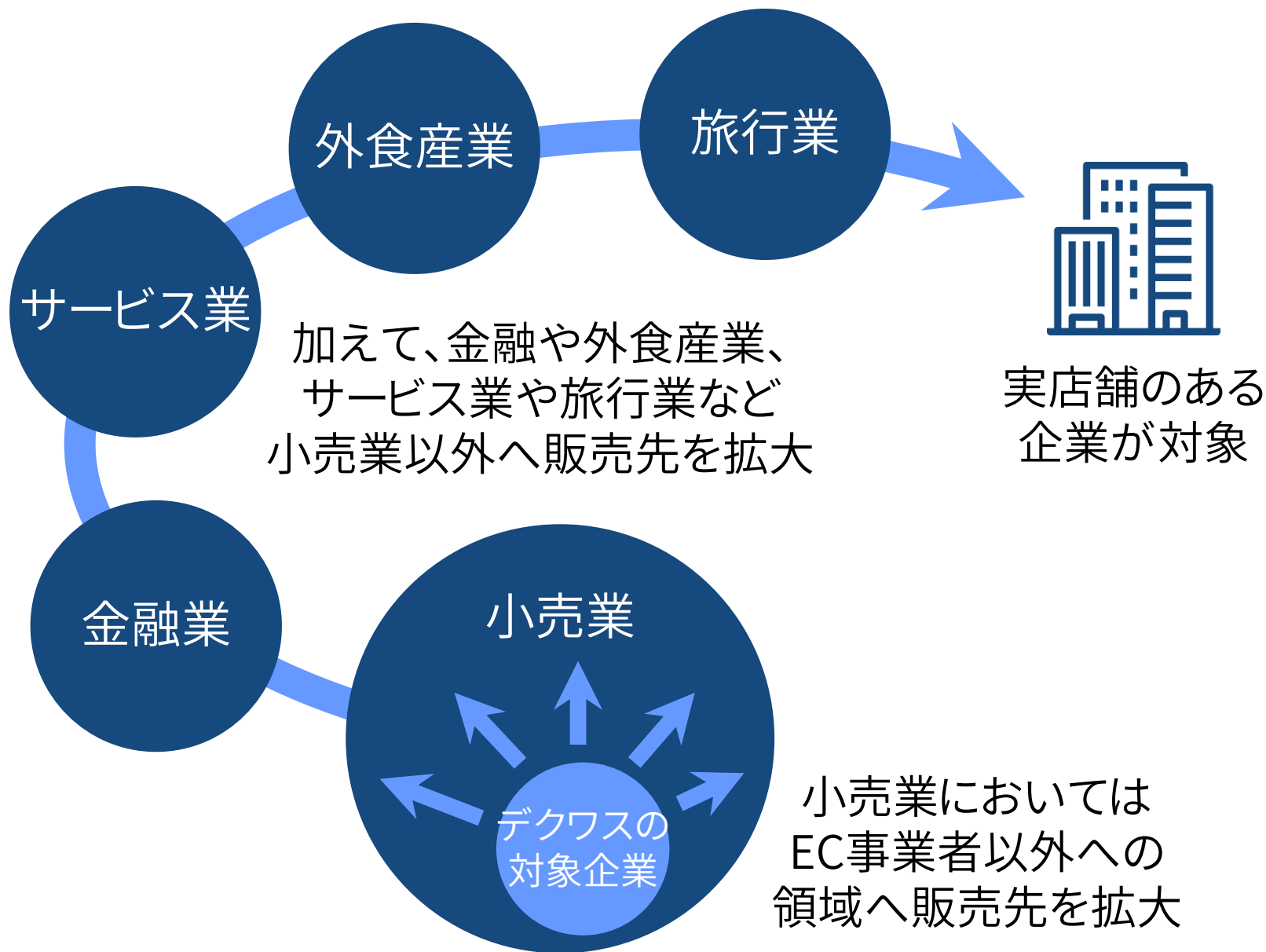


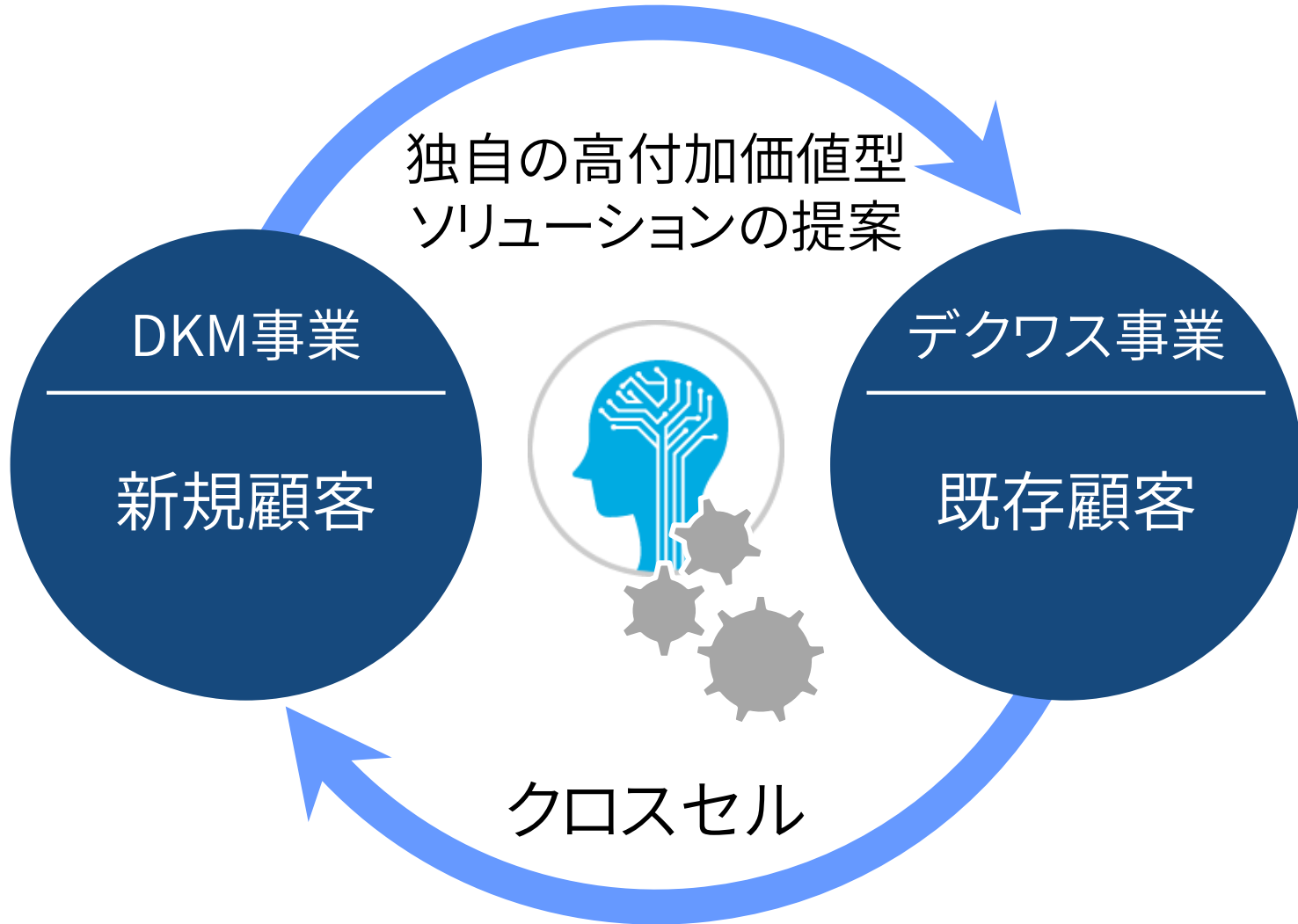
将来、AIが真価を発揮するためにはナレッジが必要



DKMプラットフォームにより、GAFA等に企業ナレッジを配信・管理







2019年6月期  
通期業績見込み

**scigineer**

上半期の既存ビジネス伸長などにより通期売上は増加するも、先行投資により利益指標は同程度に留まる見込み

科 目	2018.06 通期実績	2019.06 通期見込み	前期比
売上高	638	663	+4.0%
営業損失	106	109	—
経常損失	106	103	—
当期純損失	120	116	—



# 質疑応答

**scigineer**

本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」(forward-looking statements)を含みます。これらは、現在における見込み、予測およびリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。

それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます。

今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合であっても、当社は、本発表に含まれる「見通し情報」の更新・修正を行う義務を負うものではありません。

**scigineer**